

# 2章

## Changing Our Minds

11月2日

鳥越

# 他人の精神状態を変えるには

- 大きく分けて、2つの方法がある。
  - 言葉を通して、精神に直接働きかける。
    - 旧来の方法
    - フロイトの精神療法
  - 物理的手段を通して肉体に働きかけ、結果的に精神状態を変える。(直接操作)
    - 電気療法
    - 脳手術
    - 薬物投与

# 直接操作の倫理

- コストや確実性を考えるなら、薬物は効果的。実際、大うつなどには効果的である。
- しかし、そのような直接操作は一般に敬遠される傾向にあり、倫理的にも「なるべくなら行うべきではない」と見なされている。
- その理由を考えてみる。

# 理由

- 新たなテクノロジーに対する不安
  - 製薬会社への不信感
  - 他人に干渉することへの法的根拠
  - 治療以上の目的に対する使用への恐怖
- 
- これらを除外してもなお、直接操作に対する拒否感は残る。その理由を考える。

# 精神の本来性①

- 「**自分に関する事象は自分が決定するべき**」というルール。全世界で普遍である。
  - 実際は、近代になってからのルールだが。
- もちろん、社会生活を送る上で、自主性はある程度抑制される。
- 教会などで、他人のルールに従って生きることも可能。
  - しかし、人任せではやはり問題が残る。

## 精神の本来性②

- 直接操作が嫌われる最大の理由がここにある。
  - 自分でコントロールすべき自己の精神を、**他者からの純粋な外部刺激**によって変えられてしまうことへの拒否反応。
  - 説得による改心は、本人が納得して精神状態を変えるため、本来性は失われないのでOK。
  - 精神療法は、元々自分の中にあるものを取り出すから本来性は継続されるのでOK。

# 自己知と人の成長

- 精神療法などでは、人の無意識の中にある「**真実**」を追求しようとしている。
- しかし、直接操作では、真実を追究することは出来ないし、そもそもそういう姿勢が存在していない。
  - 薬物療法では、症状のみを考慮し、原因を考えずに治療を行えるため。本質的には問題は解決していない。

# 痛みの効用

- 痛みは、体に危険が迫っているというサインである。
- 同様に、精神の痛みは、環境に大きなストレスが存在するというサインである。
- そのため、これを止めてしまうと、環境に対する適応もしくは環境を改善しようとする意志がなくなり、精神の成長が見込めなくなる。

# 自己の機械化

- 自己を、**機械的反応の集合にすぎない**と考えるのは危険である。
  - 全てを機械的に考え始めると、動機ではなく行動で全てを判断してしまいかねない。
    - 例：**初期のフェミニズム運動に対する批判**
  - さらに、「**責任**」が発生しなくなってしまう。
- また、外界が自己の形成に一役買っていることも知られている。
  - このため、他者を「背景」と見なし始めると、自己が曖昧になってしまう。
- 原因を追求する姿勢は重要である。
  - 例：**ルーシーに対する精神療法の記録**

# 原因と症状

- 精神療法では、外面の症状から、内面にある理由を見つけ出し、理由のほうに対処する。
- 薬物療法では、内面にある理由を飛ばして外面の症状に直接働きかける。

# なぜ、鬱になるのか

- 鬱になることは、環境に対する**適応的な状態**である。
  - つらい状況下でのセロトニンの放出の減少
    - 不眠症状 → 緊張状態を持続するため。
    - 注意力の強化 → つらい状況で危険を察知するため
  - このため、鬱を発生させる状況を見逃していると、取り返しのつかない事態を発生させる可能性もある。
- ただ、命に関わるような状況や、症状に対応するしかない状況では、薬物治療もやむを得ない。

# 真実の価値

- 健全な社会に生きていれば、世界の真実性は保証されている。
  - 必ずしも、「幸せ」とはイコールにならないことに注目。
- 人は、「幸福」のみを求めているわけではない。そうでないなら、真実を追究することで不幸になるような状況を求めはしない。
- そのため、人は死よりも真実を失うことを恐れる。

# 真実の価値（個人的意見）

- おそらく、人は死ではなく、「**自己の消失**」を一番に恐れると思われる。
  - 絵画や文字の起源が例として挙げられる。
- そのため、「現在の自己」を「消失」させるような情報に対する認知力は低下する。たとえば、それが真実であっても。
  - 無意識領域における、否認のプロセス参照
  - 当然、薬物療法への拒否反応も説明できる。

# 政治的な問題

- 人間の精神を外部からいじることを認めてしまうと、簡単に原因そのものに対する無関心へとつながってしまう。
- こういった問題は社会の問題と直結していることが多いため、「痛み」を消すべきではない。

# 結びと引き

- このように、さまざまな形で、直接操作に対する拒否反応は見られる。
- では、こういった反応は妥当なのか？それを次の章で見る。